

日本語の文章を書いてみたいなあ

——日中食文化からの感想

夜中生徒 史東

私は日本に来て、もう一年を経ちました。

一年以来、川口夜間中学校を続いて通って、日本語と日本のさまざまな知識を覚えてきました。今、日本語の文章を書いてみたいから、とりあえず、日本と中国の食文化をタイトルとして、すこしその感想を書いてみます。

知っているのは、日本の人たちの日常茶飯事には魚料理が付けなければいけない、中国人も魚料理を好きな人が多いです。

でも、同じ魚の素材なのに、食文化の違いがあるので、料理の作り方がぜんぜん違います。

日本では生の魚を食べる習慣があり、味がない生の魚に醤油などを付けて食べます。中国では魚を焼いたり蒸しをしたり食べます、生の魚を食べる習慣がありません。

国によって、生活習慣とか食事習慣とか違うところ多くて、日本に住んでいる外国人として、郷に入れば郷に従えということを中心にしながら、できるだけ、日本語を勉強し、この国に慣れない食文化から慣れるようにすこしずつ頑張る必要だと思います。

たとえば、海産物の昆布の呼び方から「こんぶ」から、昆布の美味しい作り方で、昆布の栄養とか、最近、私の一つ勉強の内容として、日本語昆布関係の本を調べました。

日本語が大好きなので、勉強する際に、言葉と知識と同時に覚え、いい収穫になれるのは、私最近の一つ大きな感想です。